

779R

マルチファンクションパテ

製品概要

2K タイプの万能ポリエステルパテ。

組成: ポリエステル樹脂

製品構成

779R	マルチファンクションパテ
100L1R	パテ硬化剤 ペーストレッド
6L1B	パテ硬化剤 ペーストブルー

製品特性

- むき出しの鋼板や下記の素材に対する密着が優れています。
- 簡単に速く盛ることが出来ます。
- 細かく均一にヘラ付け出来ます。
- サンディングがスムーズです。
- 優れた柔軟性があります。
- アスベストを含んでいません。
- 欧州 VOC 規制(2004/42/EC)に適合。

塗装対象素材

- 特に鋼板、鉄板、亜鉛鋼板、アルミニウム、グラスファイバー(ポリエステル)に推奨されます。
 - 完全硬化した補修塗膜
 - 新車塗膜*
 - クロマックスアンダーコート*
- *1K プライマー、ウォッシュプライマー、熱可塑性アンダーコート、熱可塑性トップコートには推奨しません。

「上記データは、本書発行日現在の弊社の知識及び経験に基づき弊社の製品とその使用方法に関する情報を提供するもので、特定の性質、品質仕様、具体的な使用目的に関する適正、又は塗装仕上がり具合を保証するものではありません。更に、上記データは指定された材料にのみ該当するものであり、他の材料又はプロセスと組み合わせて使用する場合にはこの限りではありません。尚、実際に塗装をする際には、その塗装時の環境等の様々な要因が塗装仕上がりに影響を与えますので、使用目的毎に必ず事前に試験塗装等を行い、適切な使用方法につき確認を行ってくださいようお願い致します。弊社においては、弊社製品を用いた塗装結果について一切の責任を負いかねます。」

779R

マルチファンクションパテ

製品の使用について

 混合比	5-25°C		25-35°C	
	重量比		重量比	重量比
779R	100	100	100	100
100L1R	1-2	1	-	-
6L1B	-	-	-	1-2
VOC	150g/L			
 ポットライフ (20°C)	7-8 分			
 塗布(パテ付け)	硬化剤混合後すぐに空気を巻き込まないように滑らかにヘラ付けする。			
 乾燥	エアドライ: 15-30 分、IR乾燥(1/2 パワー): 2-3 分			

推奨使用方法

塗膜の表面処理

1. 石鹼水で塗膜表面を洗浄し、拭いて乾かす。
2. クロマックスクリーニング剤(3919S)で洗浄し、清浄なクロスで拭いて乾かす。
3. サンディング(P80 で機械研ぎ)を行う。
4. P150 あるいは P180 でフェザージェットを取る。
5. クリーンなエアースべてのサンディング粉をブローし、取り除く。
6. クロマックスクリーニング剤(3812S/3920S)で洗浄し、清浄なクロスで拭いて乾かす。

機器の洗浄

ラッカーシンナーで洗浄する。

再補修性

サンディングが出来るようになったらいつでも可能。

注意事項

- サンディングしていない素材の上にパテ付けしないで下さい。
- 推奨する量の硬化剤を使用して下さい。色が滲んだりパテ跡が出る可能性があります。
- パテの上にトップコート是直接塗装しないで下さい。吸い込みが起きる可能性があります。
- 水研ぎはしないで下さい。
- 使用前に塗料は室温(18-25°C)で保管して下さい。

「上記データは、本書発行日現在の弊社の知識及び経験に基づき弊社の製品とその使用方法に関する情報を提供するもので、特定の性質、品質仕様、具体的な使用目的に関する適正、又は塗装仕上がり具合を保証するものではありません。更に、上記データは指定された材料にのみ該当するものであり、他の材料又はプロセスと組み合わせて使用する場合にはこの限りではありません。尚、実際に塗装をする際には、その塗装時の環境等の様々な要因が塗装仕上がりに影響を与えますので、使用目的毎に必ず事前に試験塗装等を行い、適切な使用方法につき確認を行ってくださいようお願い致します。弊社においては、弊社製品を用いた塗装結果について一切の責任を負いかねます。」

779R

マルチファンクションパテ

推奨使用方法(続き)

製品データ

欧州 VOC 規制 (Directive 2004/42/EC) : この製品(製品カテゴリ: II B(b))に対する欧州基準値は希釈済み塗料で VOC が最大 250g/L です。希釈済みでのこの製品の VOC 含有量は最大 150g/L です。

安全

使用前に SDS を参照し、製品容器に表示されている指示に従ってください。

「上記データは、本書発行日現在の弊社の知識及び経験に基づき弊社の製品とその使用方法に関する情報を提供するもので、特定の性質、品質仕様、具体的な使用目的に関する適正、又は塗装仕上がり具合を保証するものではありません。更に、上記データは指定された材料にのみ該当するものであり、他の材料又はプロセスと組み合わせて使用する場合にはこの限りではありません。尚、実際に塗装をする際には、その塗装時の環境等の様々な要因が塗装仕上がりに影響を与えますので、使用目的毎に必ず事前に試験塗装等を行い、適切な使用方法につき確認を行ってくださいようお願い致します。弊社においては、弊社製品を用いた塗装結果について一切の責任を負いかねます。」